

よこはまの 地区社協活動

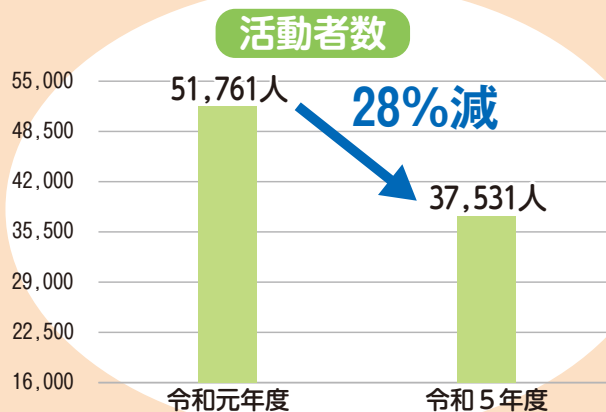
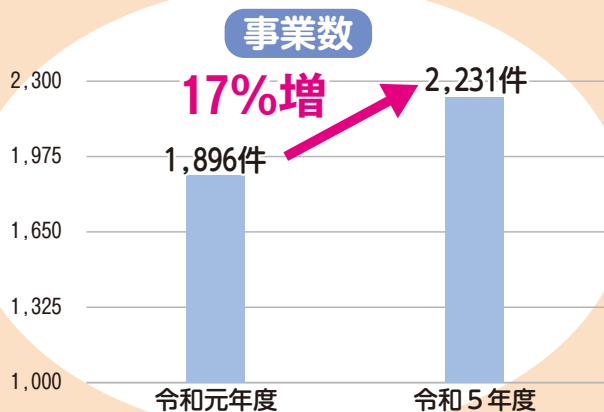
令和6年度版



地区社協は「自分たちの地域は自分たちで良くしていこう」という気持ちで組織された地域住民による任意団体です。「一人ひとりの困りごとを解決できる地域づくり」を目的とし、地区内の福祉に関わる団体・施設などが会員となりネットワーク組織として活動しています。

**コロナ前より
事業数17%増加
活動者数28%減少**

地区社協状況書をもとに、新型コロナウイルスが流行する前年の令和元年度と令和5年度とを比較すると、地域活動の事業数は全体で17%増加しています。一方で、活動者の延べ人数は全体で28%減少していることがわかりました。（サロン等継続的なもの、単発のイベント的なもの、配食サービスの3つの事業で比較）



地区社協のヒアリングでは

若い世代は共働き世帯が多くて、定年後も働き続ける方が増えているのよね。

以前はお祭りの懇親会で声を掛けることができたけど、コロナで行事が中止だったので、新たな担い手の発掘が出来なかったんだ。

前は子ども会の方に声を掛けて役員をお願いすることも多かったけど、子ども会が解散する動きもあって、なかなか次世代の担い手を見つけることが出来ないのよ。

次のページでは、担い手不足の課題に対する取組の工夫についてご紹介します➡

令和5年度 市内256地区社協の主な活動実績（延べ回数）

見守り活動 約123,200世帯訪問 (前年度比 +約5,400世帯)	サロン、会食など 約30,900回開催 (前年度比 +約5,300回)	生活支援ボランティア 約23,400件対応 (前年度比 -約1,100件)	配食活動 約110,500食配付 (前年度比 -約22,700食)
---	---	---	---

地域活動の仲間を増やすために

地域では活動の担い手不足が課題となっていますが、自分たちの団体・グループが必要だと思う「担い手」とはどんな人でしょうか？当日のお手伝いをしてくれる人？企画から関わってくれる人？地域の役員をしてくれる人？

地域活動に関わる人が少なくなっている現在の状況では、まずは地域活動への参加の裾野を広げ、そこから無理のない範囲で、関わりの度合いを高めていくような働きかけが必要です。

ここでは、「地区社協状況書」から、地域活動の仲間を増やすための具体的な工夫を紹介します。

ステップ▶参加の裾野を広げる▶▶▶参加しやすくする▶▶▶参加から協力へ

広報



地区社協の広報紙は事業の報告だけでなく、これから実施する事業のお知らせを載せるようにしています。



チラシや広報紙は病院やコインランドリーなど待合室のあるところに配架して、いろいろな人の目に留まるようにしています。



参加者をお願いして、チラシの写真をSNSやLINEで共有してもらったり、口コミで参加を呼び掛けてもらっています。

知り合いから誘ってもらって参加してみました。知っている人がいるので、安心して参加できます。



企画



趣味活動などテーマを絞った企画をしました。テーマを絞ったことで今まで地域の活動に参加したことがない人たちが来てくれました。



皆さんで話し合ってみましょう

先日引越してきました。知り合いをつくりたいのですが、普段は働いているので、平日昼間のイベントには参加しにくいです。



どんな企画や工夫があると参加につながるでしょうか？

申込み



申込が必要なものには二次元コードをつけて、スマホから気軽に申込ができるようにしました。若い人は閲覧板に名前を書くよりも、参加しやすいみたいです。

声掛け



参加者もスタッフもみんな名札を着用して、名前呼び合えるようにしています。



初参加でしたが、名前を呼んでお話してもらえてとても嬉しかったです。



参加者とはなるべく雑談をして、仲良くなるようにしています。その方が場の雰囲気に早く馴染めるし、相手のことを知ることができます。



皆さんで話し合ってみましょう



初めて参加してみたのですが、一人で参加したのは私だけで戸惑うことが多かったです…。

どうしたら一人で参加した方が「また来たい！」と思えるでしょうか？

お手伝い



「やってみたら楽しかった」、「これくらいならまたやってみよう」と思える程度の小さな役割を作って、お願いしています。やってもらった後は「ありがとう！またお願いね！」と声を掛けるようにしています。

ちょっとしたことでお役に立てて、ありがとうと言われると嬉しいです。このくらいで良ければ、また手伝ってもいいかなと思います。



サロンの参加者にできる範囲でお手伝いをお願いするようにしたら、役割を持ったことでいきいきと参加してくれるようになりました。



私はおしゃべりが苦手なので、何か役割があった方が気が楽です。



皆さんで話し合ってみましょう

あなたが関わっている活動では、どんなことなら参加者をお願いできそうでしょうか？「ちょっとしたお手伝い」を探してみましょう。



協力から参画へ



振り返り



よくお手伝いをしてくれる方を振り返りの会に誘ってみたら、次の企画にもいろいろなアイデアを出してくれました。

初めて振り返りの会に参加しました。スタッフの方々が地域のことを考えていて、とても意味のある活動だと思いました。



振り返りの会でいろいろお話をしたら、地域の活動にとっても関心を持っていることがわかりました。今度ある地域福祉保健計画の意見交換会にもお誘いしてみたいと思います。

自分より年配の方々ばかりなので、最初は不安でしたが、思い切って自分が気付いたことを話してみたら「なるほど〜!」と受け入れてもらえて嬉しかったです。



役割



いつも地域食堂に来てくれる方が昔経理の仕事をされていたと聞いたので、受付と参加費の管理をお願いしてみました。とても丁寧に対応してくださって助かっています。

月に1度のお手伝いですが、現役に戻ったみたいで張り合いになります。元気に続けられたらと思います。



仲間づくりのポイント

いきなり役員などの「担い手」を探そうとしても上手くはいきません。

まずは、**仲間を増やすことを意識**してみよう。

多くのことを一人の方が担うのではなく、**作業を細分化して、複数人で分担**すると負担を分け合うことができます。



仕事や体調、介護や子育てなどの事情に応じてお休みする期間があっても、**無理のない範囲でまたいつでも戻ってこられる雰囲気**だと気軽に参加することができます。

参加者もちょっとした役割があることで、その場所が自分にとっての居場所になります。

支える側、支えられる側の区別なく、誰もが**必要とされるような場**を作れると良いですね。

